



ルームエアコンマルチ室外ユニット

据 付 説 明 書




二次元バーコードは製造用コードです。

安全上のご注意


- 据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。ここに示した注意事項は、次の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。


 警告	誤った据付けにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。	 注意	誤った据付けにより、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
---	--	---	--

- 本文中に用いられる「絵表示」の意味は次の通りです。

	指示を守る		アース線接続		禁止
---	-------	---	--------	---	----

- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

 警告	
<ul style="list-style-type: none"> ●据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 お客様自身で据え付けられ不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。 ●据付工事は、この据付説明書に従って確実に進行。 据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。 ●設置工事部品は、必ず付属品および指定の部品を使用する。 指定部品を使用しないと、ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因になります。 ●据付けは、質量に十分耐える所に確実に進行。 強度不足や取付けが不完全な場合、ユニットの落下により、けがの原因になります。 ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると、火災や感電の原因になります。 ●据付工事は、必ず電源を切って行う。 電源を入れたまま電気部品に触れると感電の原因になります。 ●アース工事は確実に進行。 アース線は、ガス管や水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合、感電や火災の原因になります。 ●漏電しゃ断器を必ず取り付ける。 漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電や火災の原因になります。 ●配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。 施工不備があると、発熱や感電、火災の原因になります。 ●室内、床暖房ユニットと室外ユニット間および電源の配線は、所定の電線をを使い確実に接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。 接続や固定が不完全な場合、発熱や感電、火災の原因になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内、床暖房ユニットと室外ユニット間および電源の配線は、右側板などの構造物が浮き上がらないよう電線を成形し、右側板を確実に取り付ける。 右側板の取付けが不完全な場合、端子部の発熱や感電、火災の原因になります。 ●エアコンおよび床暖房ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない。 空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●指定冷媒(R410A)以外は使用しない。 機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。 ●ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。 冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。 冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。 ●設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーターやコンロ、ストーブなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。 ●配管・フレアナット・工具は指定冷媒(R410A)専用のものを使用する。 既存冷媒(R22)の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。 ●可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。 ひび割れや感電、引火の原因になります。

 注意	
<ul style="list-style-type: none"> ●可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない。 万一ガスが漏れて、ユニットの周囲にたまること、発火の原因になります。 ●ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合は屋内に浸水し、家財などをぬらす原因になることがあります。 ●室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。 鋭利な板金によりけがの原因になることがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内外ユニットの吸込口やアルミフィンに触らない。 けがの原因になることがあります。 ●フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。 フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。 ●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

重要 従来機からの据付上の変更点

- 誤配線チェックを完了するまでは運転できません。
配管と配線の誤接続を防止するために、必ず誤配線チェックを行ってください。製品が異常停止し、リモコンのエラーコード確認にて「U3」が表示された場合は、誤配線チェックが完了していません。(詳細は「誤配線チェックについて」を参照してください。)

据付場所の選定

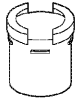
- 室外ユニットの振動、質量に耐え、運転音が増大しないしっかりした所。

ご注意 天吊り設置・段積み設置はできません。

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●各ユニット据付箇所の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。 ●排水されたドレン水が流れても問題のない所。 ●吸込口・吹出口に障害物のない所。
(降雪地では、雪でふさがれない所) ●雨、強風、直射日光があたりにくく、風通しの良い所。 ●消防法および都道府県の条例などを満足する所。 | <ul style="list-style-type: none"> ●可燃性ガスの漏れるおそれのない所。 ●海岸地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所では、室外ユニットの寿命が短くなる場合があります。 ●運転音や冷(温)風が隣家の迷惑にならない所。
(特に隣家との境界線では、環境基本法第16条の規定に基づく騒音に係る環境基準および都道府県の条例などを満足すること) ●テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。 |
|--|---|

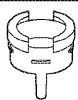
付属部品

㉑ドレンソケット



1個

㉒ドレンキャップ



4個

㉓ドレン受け



5個

㉔取扱説明書
㉕据付説明書
㉖保証書

各1部

各ユニット据付図

- 室内ユニットについては室内ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。(イラストは壁掛室内ユニット)
- 床暖房ユニットについては、床暖房ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

お願い

室外ユニットの能力クラスが10.0kWの場合

- E室には必ず室内ユニットを接続してください。
- E室に接続した室内ユニットでは、他の部屋(A室、B室、C室、D室)のリモコンからの運転操作(他室運転)ができません。E室には、他の部屋のリモコンからの運転操作を必要としない部屋をお選びください。

注意

- 室内ユニットまたは床暖房ユニットの1台接続はできません。必ず2台以上接続してください。
- 室内ユニットまたは床暖房ユニットを後で据付けるため各ユニットを接続せずに配管工事のみ先行する場合は、連絡配管と室外ユニットは接続しないでください。連絡配管の両端をゴミ、水分が入らないように処理してください。

●**室外ユニットの据付け①**を参照してください。

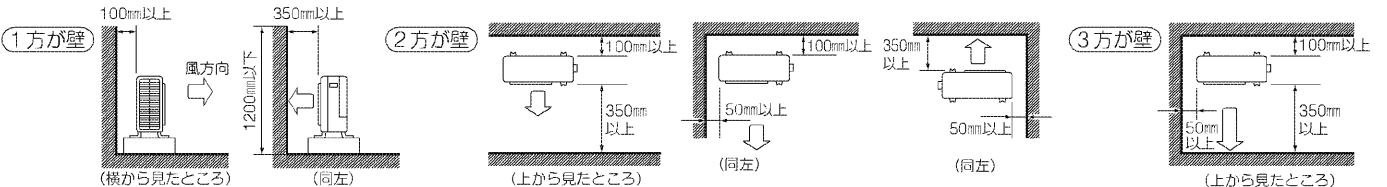
吹出側正面から強風が吹き付け、ファンが破損するおそれがある場合は、室外ユニット吹出側の向きを変更するか、風向調整板(別売品)を使用してください。

転倒や落下のおそれがある場合は、基礎ボルトやブロックバンド(別売品)または針金などで本体を固定してください。

水はけの悪い場所では平置台(または樹脂製置台)の上に置いてください。室外ユニットは水平位置に据え付けてください。水漏れ、水たまりの原因となります。

室外ユニットの据付所要スペース

- 室外ユニットの吸込口、および吹出口周辺に壁などの障害物がある場所に据付ける場合、下記パターンに従ってください。
- いずれの据付けパターンでも、吹出側壁面高さは1.2m以下としてください。



室内ユニットおよび床暖房ユニット据付場所の選定

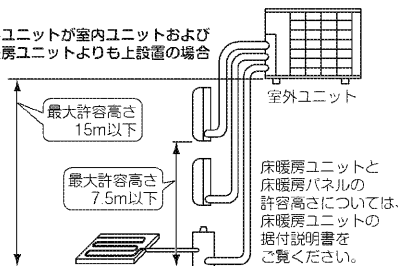
- 冷媒配管の最大許容長さ、室内ユニット、床暖房ユニットの最大許容高低差は以下の通りです。

(冷媒配管は短いほど性能は良くなります。なるべく短くなるように接続してください。ただし、下表の範囲を守ってください。)

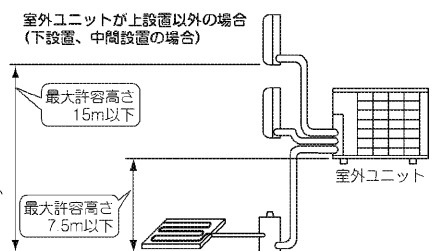
室外能力クラス	8.0kW	10.0kW
1室最大許容長さ	30m以内	30m以内
全室最大許容長さ	70m以内	80m以内
	室内ユニット	床暖房ユニット
一室最小許容長さ	3m	※ 1m

※全室合計で8m以上にしてください。

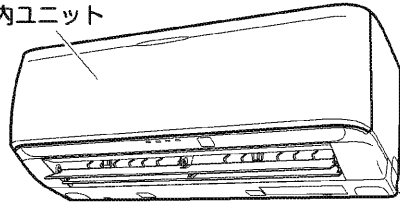
室外ユニットが室内ユニットおよび床暖房ユニットよりも上設置の場合



室外ユニットが上設置以外の場合(下設置、中間設置の場合)



室内ユニット

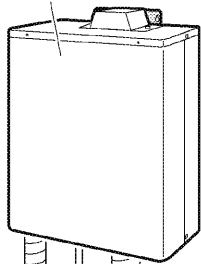


壁貫通穴とのすき間はパテ埋めをしてください。

ワイヤードリモコン



床暖房ユニット



断熱筒を適当な長さに切りすき間ができないよう、テープで巻いてください。

仕上げテープを巻くときは下から上へ巻いてください。

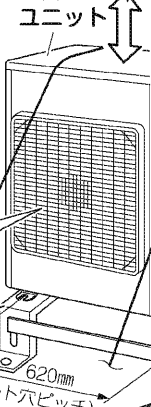
天井面から300mmの作業スペースを考慮してください。

配管化粧カバー(現地調達品)

配管、電装品サービススペースを考慮してください。

冷媒配管工事や配線工事をする場合は、ネジ6カ所を外して右側板を取り外してください。

室外ユニット



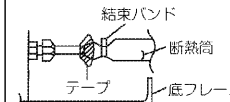
壁面から250mm

右側板

床暖房パネル

ネジ(6カ所)

室外ユニット接続部分の断熱もしてください。



各々の接続部で銅管と断熱筒の間に空気が入らないようにテープあるいは結束バンドを使って処理してください。室外ユニットが上設置の場合には、必ず行ってください。

室外ユニットの据付け①

1 室外ユニットの据付け

注意

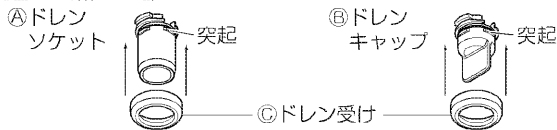
室外ユニットは、小動物(虫やカエルなど)のすみかになるような場所には設置しないでください。(例えば、落ち葉の多い所など)小動物が侵入し発煙・発火の原因になることがあります。また、侵入することを減らすために「置台」を必ず使用し、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

- 室外ユニットの据付けは、**据付場所の選定**、**各ユニット据付図**を参照してください。
- ドレン処理が必要な場合、下記要領でドレン工事を行ってください。

ドレン工事

- ドレン排水するときは、ドレンソケットを使用してください。
- 排水穴が取付台や床面などに隠れる場合は、室外ユニットの脚下に100mm以上の間座を入れてください。

① ③ドレン受けを④ドレンソケット、⑤ドレンキャップの突起(周囲4カ所)の上部まではめこむ。



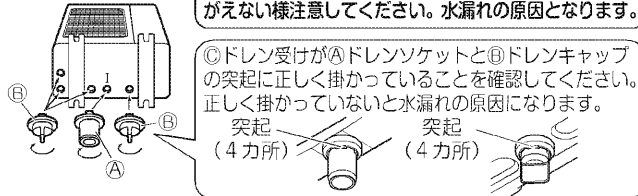
② 室外ユニット底フレームのドレン穴の形状に合わせて④ドレンソケットをドレン穴Iに、⑤ドレンキャップをその他のドレン穴にはめこみ、約40°右へまわす。

注意

④ドレンソケットと⑤ドレンキャップの取付位置をまちがえない様注意してください。水漏れの原因となります。

⑤ドレン受けが④ドレンソケットと⑤ドレンキャップの突起に正しく掛かっていることを確認してください。正しく掛かっていないと水漏れの原因になります。

(下面より)



③ 市販のビニールホース(内径25mm)とホースバンドを用いて、④ドレンソケットにホースを接続する。

④ 底フレームに水を流し、各部のドレン穴から水漏れがないかを必ず確認してください。

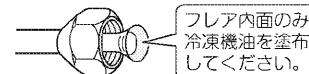
注意

ホースが長くたれ下がる場合は途中でホースを折曲げぬ様、注意して固定してください。

- 寒冷地では、室外ユニットのドレン排水は「タレ流し」にしてください。(ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結し、暖房効果が損なわれることがあります。)

2 冷媒配管の接続

- 年数の経過によるフレアナットの腐食割れを防ぐため、フレアナットは本体付属のものをご使用ください。
- フレアナットの割れ防止およびガス漏れ防止のため縮付け時はトルクレンチをご使用ください。
- ガス漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油を塗ってください。過剰な縮付けトルクにならないよう、フレア外面やフレアナットのネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。(冷凍機油はR410Aのもの(FVC50K)をご使用ください。)
- 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手回しで3~4回転ねじ込み、その後所定のトルクでしっかりと締め付けます。



フレアナット締め付けトルク	
ガス側 32.7~39.9N・m (333~407kgf・cm)	液側 14.2~17.2N・m (144~175kgf・cm)

弁ふた締め付けトルク	サービスポートキャップ締め付けトルク
● 液側 26.5~32.3N・m (270~330kgf・cm)	10.8~14.7N・m (110~150kgf・cm)
● ガス側 48.1~59.7N・m (490~610kgf・cm)	

※ガス管外径φ9.5以外の室内ユニットについては、室内ユニット側の据付説明書を参照してください。

3 エアパージとガス漏れ確認

- 配管工事が終わったらエアパージとガス漏れ確認が必要です。**室外ユニットの据付け②**を参照してください。

4 冷媒追加充てん

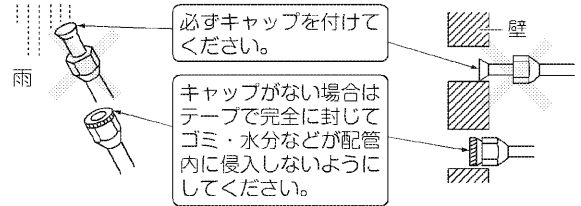
各室合計配管長が40mを超える場合は、超過した長さに対して20g/m追加充填してください。

注意

閉鎖弁が全閉でも、冷媒が徐々に漏れることがありますので、フレアナットを外した状態で長時間放置しないでください。

冷媒配管工事について

- 配管内にゴミ・水分を入れない。
- 曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用してください。



配管の選定と断熱

- 配管セット(別売品)をおすすめしますが、市販材料使用の場合は次のことを守ってください。

市販の銅管使用の場合

仕様 C1220T-O(JIS H3300) 付着油量40mg/10m以下

断熱材材質：発泡ポリエチレンフォーム

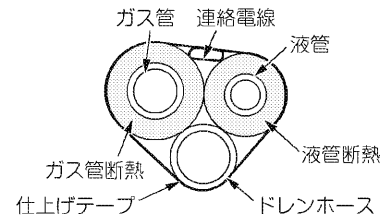
熱伝導率：0.041~0.052W/mK(0.035~0.045kcal/mh°C)
(ただし、ガス管は表面温度が最高110°Cになりますからそれに耐えるものを使用願います。)

- 液管、ガス管共必ず断熱してください。断熱寸法は下記に従ってください。

ガス管	液管	ガス管断熱	液管断熱
外径9.5mm	外径6.4mm	内径12~15mm	内径8~10mm
肉厚0.8mm	肉厚0.8mm	肉厚8~10mm	肉厚8~10mm
曲げ半径30mm以上	曲げ半径30mm以上	-	-

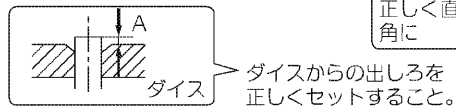
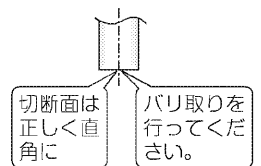
※ガス管外径φ9.5以外の室内ユニットについては、室内ユニット側の据付説明書を参照してください。

- ガス管、液管は分離断熱をしてください。



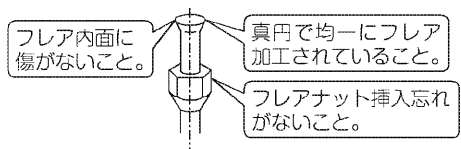
フレア加工について

- ① パイプカッターで配管を切断します。
- ② 切粉や異物が配管内に入らないよう、切断面を下にしてバリ取りを行います。
- ③ フレアナットを配管に挿入します。
- ④ フレア加工を行います。



A	R410A用フレアツール	従来のフレアツール	
	クラッチ式	クラッチ式(リジット)	ウィングナット式(インベリアル)
	0~0.5mm	1.0~1.5mm	1.5~2.0mm

- ⑤ フレア加工が正しく出来ているかチェックします。



警告

フレア加工は正しく確実に行ってください。不備があると、冷媒ガスが漏れる原因になります。

室外ユニットの据付け②

5 エアパーズとガス漏れ確認

警告

- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気をしてください。
- 冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気やガスなどを混入させないでください。
- ガス漏れ確認を必ず行ってください。

地球環境保護の観点から、エアパーズは、必ず真空ポンプをご使用ください。

- 必ず全室同時にエアパーズを行ってください。
- R410A専用のツール(ゲージマニホールド、チャージホース、真空ポンプアダプタなど)を使ってください。
- 閉鎖弁の弁棒操作用に六角レンチ(対辺4mm)を用意してください。
- 冷媒配管の接続部はすべてトルクレンチを使用し、所定のトルクで締め付けてください。

①ガス側閉鎖弁のサービスポートに、ゲージマニホールドのチャージホース突起側(虫ピンを押す側)を接続します。



②ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開、高圧側バルブ(Hi)を全閉にします。(高圧バルブは以降操作しません。)



③真空引きを行い、連成計が -0.1MPa (-76cmHg)になっていることを確認します。(1時間以上の真空引きを推奨します。)



④ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にし、真空ポンプを停止させます。(4~5分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認します。連成計の針が戻る場合は、水分の混入や接続部の漏れが考えられます。各接続部の点検およびナットを一旦ゆるめ締め直した後、再度②~④の操作を行ってください。)



⑤液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外します。



⑥液閉鎖弁の弁棒を六角レンチを使って反時計方向に 90° 開き、5秒後に閉じ、ガス漏れ確認を行います。ガス漏れ確認は、室内ユニット側はフレア部周辺を、室外ユニットはフレア部周辺、弁棒周辺を石けん水を塗布してチェックします。チェック後はていねいにふき取ります。



⑦ガス閉鎖弁のサービスポートよりチャージホースを外し、液閉鎖弁、ガス閉鎖弁を全開にします。(弁棒は、あたりがある所で止め、それ以上回さないでください。)



⑧液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたとサービスポートのキャップをトルクレンチを使って所定のトルクで締め付けます。
室外ユニットの据付け①を参照してください。

フロンについて



家庭用マルチエアコンには最大で CO_2 (温暖化ガス) 10,500 kg に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

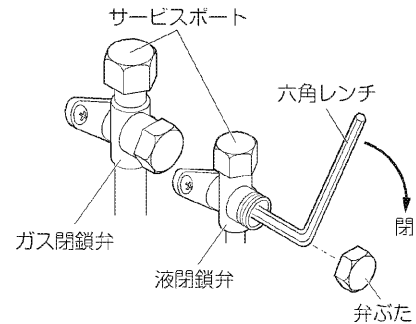
この表示は家庭用マルチエアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを、ご認識いただくための表示です。

ポンプダウン運転について

地球環境保護の観点から、移設時および廃却時には、ポンプダウンを行ってください。

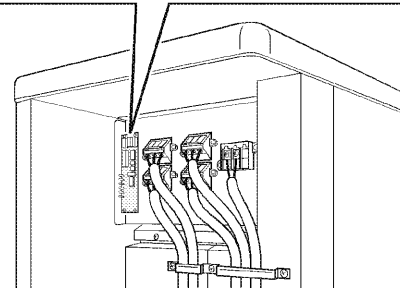
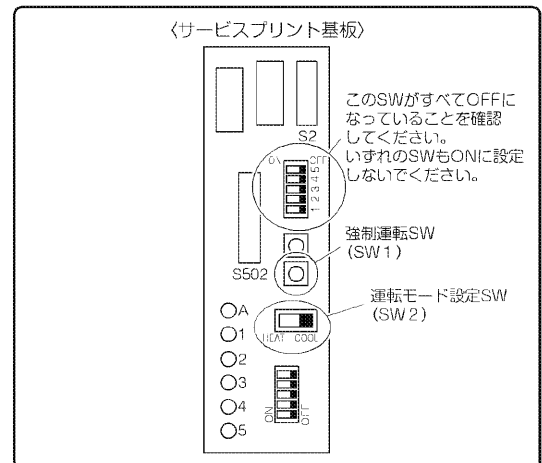
- ポンプダウン運転を行う前に待機電力セーブコネクタが差し込まれていることを確認してください。
- 待機電力セーブ機能について**を参照してください。

- ①液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたをはずします。
 - ②強制冷房運転を行います。
 - ③約5分後、液閉鎖弁を六角レンチを使って閉じます。
 - ④2~3分後、ガス閉鎖弁を閉じて、強制冷房運転を停止します。
- (注) ●圧縮機保護のため、強制冷房運転開始から11分後には自動停止します。
●床暖房ユニット接続時に、外気温が約 5°C 以下の場合、ポンプダウンできない場合があります。
その場合は、約10分間床暖房の運転を行ってからポンプダウンを行ってください。



●強制冷房運転のしかた

- ①運転モード設定SW(SW2)を"COOL"にします。
- ②強制運転SW(SW1)を押すと、強制冷房運転を行います。もう一度強制運転SW(SW1)を押すと強制冷房運転を停止します。



(裏面につづく)

室外ユニットの据付け③

6 配線工事

警告

- 配線の途中接続、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしないでください。発熱、感電、火災の原因となります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規程」に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると、火災、感電の原因になります。

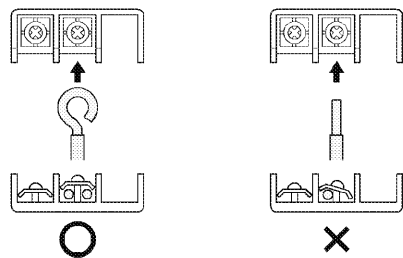
- 安全ブレーカーはすべての作業が終わるまで入れないでください。

電源端子盤接続のしかた

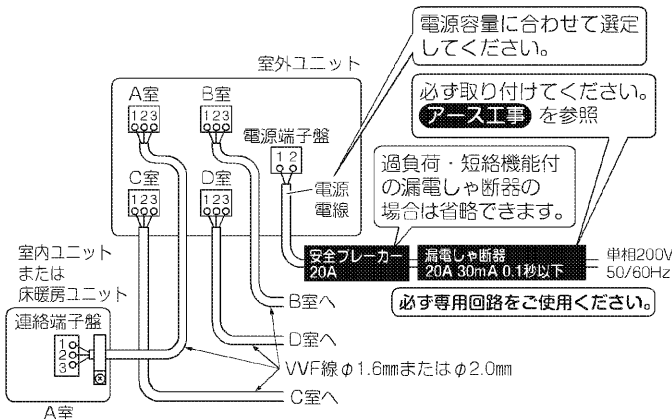
- ①電線の被覆むきを行います。(20mm)
 - ②電源端子盤のネジはしっかりと締め付けてください。ネジの締付けにはドライバーを使用することを推奨します。
 - ③電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止めバンドで電線を固定します。
- 電気設備技術基準および内線規程に従って施工してください。
 - 必ず漏電しゃ断器の取付け、D種接地工事を行ってください。漏電しゃ断器が取り付けられていない場合、D種接地工事が不完全な場合、感電や火災の原因になることがあります。

注意

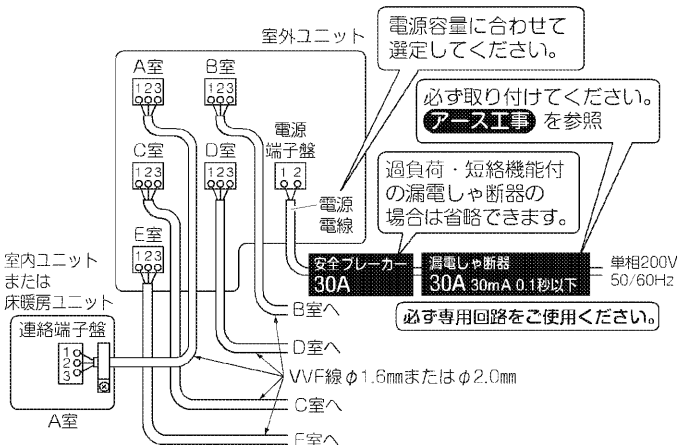
電源端子盤に電線を接続する場合は、必ずカーリングを行ってください。施工不備があると発熱・火災の原因になります。



■室外ユニット能力クラス8.0kWの場合

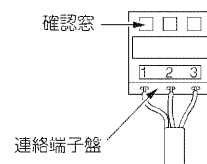


■室外ユニット能力クラス10.0kWの場合

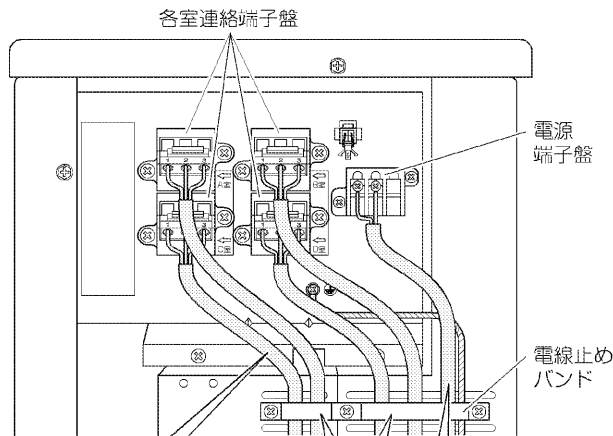


各室連絡端子盤接続のしかた

- ①電線の被覆むきを行います。(必ず15mm)
- ②連絡電線の端子番号を室内ユニット(床暖房ユニット)と室外ユニット同士で合わせて接続します。
- ③電線の色を確かめ、連絡端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込みます。
- ④確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめます。
- ⑤電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止めバンドで電線を固定します。
- ⑥右側板を取り付けます。

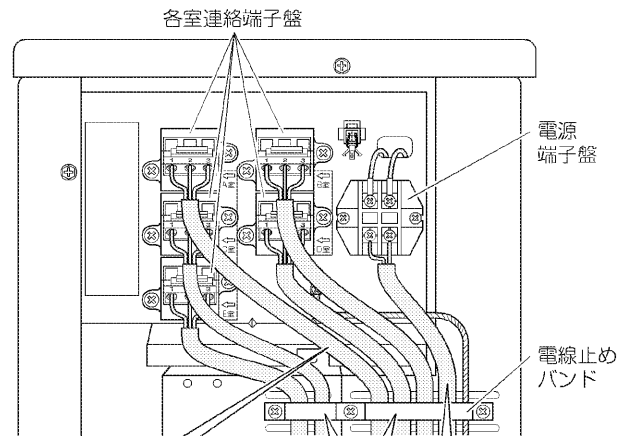


■室外ユニット能力クラス8.0kWの場合



- 右側板などの構造物が浮き上がらないよう電線を成形してください。
- 端子部に直接外力が伝わらないよう確実に固定してください。
- 所定の電線を使い確実に接続してください。

■室外ユニット能力クラス10.0kWの場合



- 右側板などの構造物が浮き上がらないよう電線を成形してください。
- 端子部に直接外力が伝わらないよう確実に固定してください。
- 所定の電線を使い確実に接続してください。

アース工事

アース工事のしかた

- ①右側板を外します。
- ②アース線をアース端子に接続します。

警告

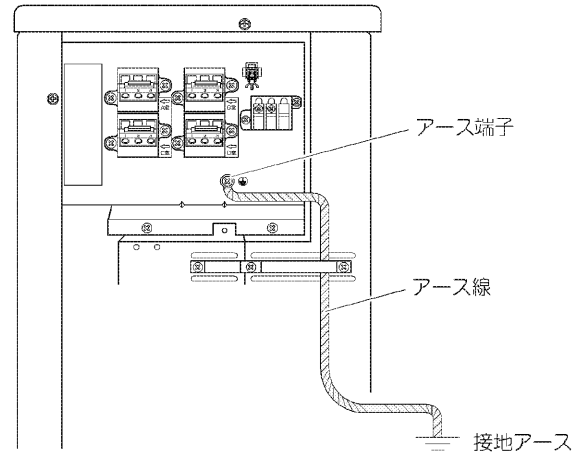
アース工事を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合、感電や火災の原因になることがあります。

接地の基準

- 漏電しゃ断器(高調波対応品)を取り付け、さらにD種接地工事が必要です。(本機はインバーター装置を有するため、漏電しゃ断器自体の誤動作を防止するため、高調波対応品を使用してください。)

D種接地工事について

- 電気工事士の方が行ってください。
- 漏電しゃ断器(定格感度電流が30mA以下で動作時間が0.1秒以下の電流動作型のもの)を取り付け、設置抵抗は必ず500Ω以下にしてください。

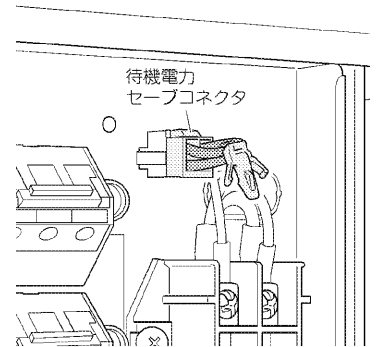


待機電力セーブ機能について

- エアコンを使用していないときにも消費される待機電力をセーブし、電気代のわずかなムダもカットします。
- すべての室内ユニットが停止すると、約3分後に室外ユニットへの電源供給をカットします。待機電力セーブ中は、室外ユニットのサービスプリント基板のLEDが消灯します。
- 待機電力セーブコネクタをさしこんだ状態(工場出荷時)では、機能無効となります。

下記のような場合は、必ず待機電力セーブコネクタを差し込んだ状態にしてください。

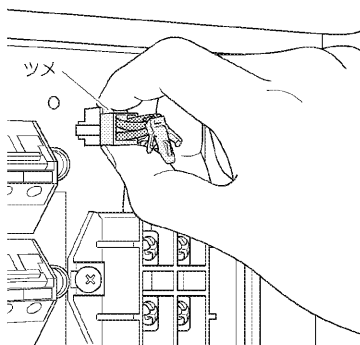
- 床暖房ユニットを接続する場合
- カタログ記載以外の組み合わせの室内ユニットを接続する場合
- 強制運転SWを押してポンプダウン運転をする場合



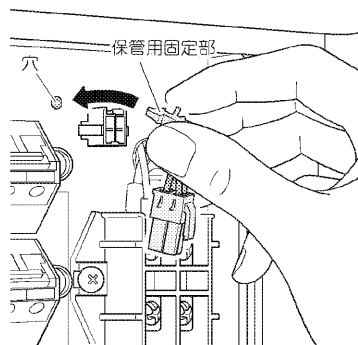
《設定のしかた》

待機電力セーブ機能を設定する場合は以下の手順に従ってください。

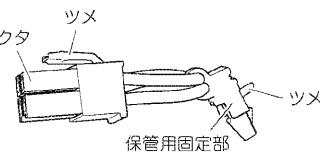
- ①待機電力セーブコネクタの上のツメを押さながら、取り外してください。



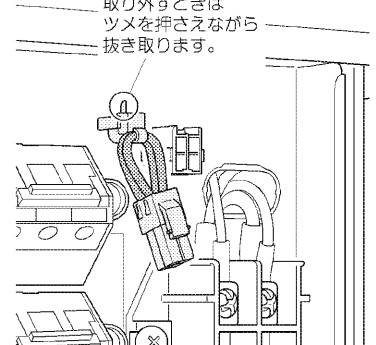
- ②保管用固定部を端子盤横の穴に差し込んでください。



待機電力セーブコネクタ



取り外すときはツメを押さながら抜き取ります。



夜間静音モード設定について

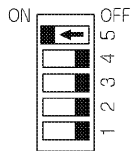
夜間静音モードをご使用になるには、据付け時の初期設定が必要です。
お客様へ下記の夜間静音モード機能の説明を行っていただき、夜間静音モード設定の
要否を確認してください。

〈夜間静音モードについて〉

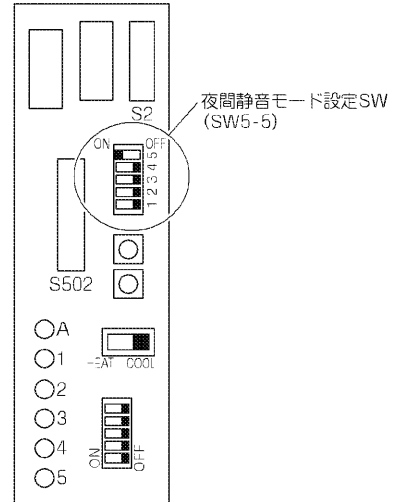
夜間静音モードは、夜間の室外ユニットの運転音を低減する機能です。
近隣への運転音を気にされる方に便利な機能です。
ただし、夜間静音モードが働くと、冷房/暖房能力をセーブした運転となります。

〈設定のしかた〉

SW5-5をON側にスライドしてください。



〈サービスプリント基板〉



パワースライド設定について

※床暖房ユニットを接続する場合は、設定しないでください。

〈パワースライド機能とは〉

パワースライド設定をされた室内ユニットの運転が優先されます。
ゲストルームやリビングルームに設定すると便利です。

①運転モードの優先

他の室内ユニットが運転中でも、パワースライド設定した室内ユニットの運転モードが優先されます。
この時、他の室内ユニットは運転を行わず待機状態になる場合があります。

②パワフル運転時の優先

設定した室内ユニットでパワフル運転を行うと、他の室内ユニットに優先して、能力を供給します。

③しずか運転時の優先

設定した室内ユニットでしずか運転を行うと、室外ユニットが静音運転を行います。
この時、トータル能力が若干ダウンする場合があります。

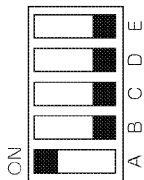
パワースライド機能をご使用になるには、据付け時の初期設定が必要です。

お客様へパワースライド機能の説明を十分に行っていただき、パワースライド設定の要否を確認してください。

〈設定のしかた〉

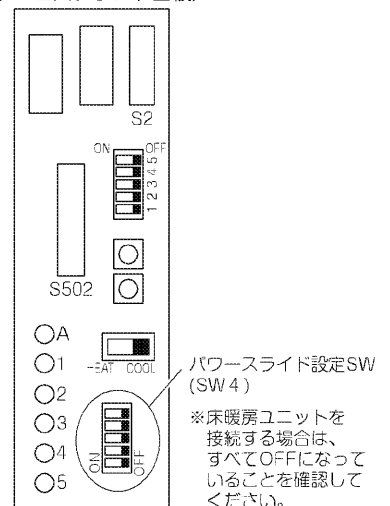
優先部屋設定をしたい室内ユニットの
配管ポートに対応したスイッチをON側に
スライドさせてください。

必ず1室のみ設定してください。



(A室を設定した場合)

〈サービスプリント基板〉



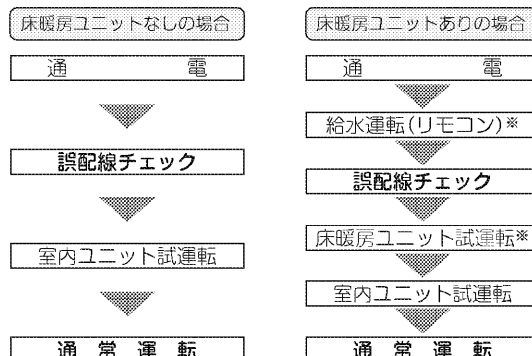
※床暖房ユニットを
接続する場合は、
すべてOFFになって
いることを確認して
ください。

試運転と最終チェック①

- 試運転前に安全ブレーカー1次側で電圧を測定し、**200V±20V以内**であることを確認してください。
- 液・ガスの各閉鎖弁が「全開」になっていることを確認してください。
- 待機電力セーブコネクタの設定が適切であるかを確認してください。

試運転機能について

- 以下の工事と設定を行ってから、試運転してください。



※床暖房ユニット接続時の給水
運転および床暖房試運転は、
床暖房ユニットの据付説明書
を参照してください。

試運転と最終チェック②

誤配線チェックについて

- 配管と配線の誤接続を防止するため、据付時には誤配線チェックを必ず行ってください。
- 床暖房ユニットを接続する場合は、床暖房ユニットの給水運転完了後に行ってください。

誤配線チェックを完了するまでは運転できません。

誤配線チェックのしかた

①室外ユニットのサービスプリント基板上の「誤配線チェックSW(SW3)」を押してください。

安全ブレーカーON後、1分間は受け付けません。

誤配線チェック中は、サービスプリント基板上のLEDが交互に点滅します。

室外能力クラス 8.0kWの場合：1、4 ↔ 2、3

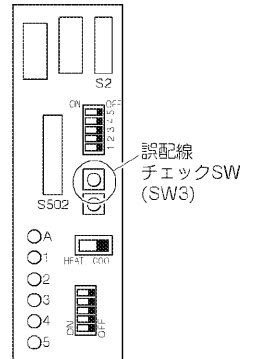
10.0kWの場合：1、5 ↔ 2、3、4

- 外気が**10℃以下**のときは、検出不能となり、すべてのLEDが同時に点滅します。

②開始後約20分で誤配線チェックを行い、結果をサービスプリント基板上のLEDにて表示します。

各LEDは、LED1がA室配線、LED2がB室配線、LED3がC室配線、LED4がD室配線、LED5がE室配線に対応しています。

(サービスプリント基板)



LED表示	判定	処置方法	処置後の対応
LED番号順に点滅 室外能力クラス 8.0kW機の場合：1→2→3→4 (A室→B室→C室→D室) 10.0kW機の場合：1→2→3→4→5 (A室→B室→C室→D室→E室)	正常	チェック完了	室内ユニットまたは床暖房ユニットの試運転を行ってください。
LEDが順不同で点滅 例)：1→3→2→4 (A室→C室→B室→D室) の順など	誤配線	点滅表示の順番がLED番号順になるようにA～E室の配線を修正してください。 注意 必ず電源を切ってから行ってください。 例) 1→3→2→4の場合、B室とC室を入れ替えてください。	●誤配線チェック完了後のLED表示は、試運転を行うことにより消灯します。
すべて同時に点滅	検出不能 (外気10℃以下などの場合)	各々の室内ユニット(床暖房ユニット)と室外ユニット間の配線と配管のチェックを目視で行ってください。	

- LED1～4のいずれかの表示が点灯する場合は、故障の可能性があります。製品診断要領に従ってください。(右側板裏面の銘板をご覧ください。)

③誤配線チェック完了後、試運転を行ってください。

- 床暖房ユニットの試運転は、床暖房ユニット付属の据付説明書をご覧ください。

室内ユニットの試運転のしかた

①室内ユニット付属のリモコンにて室内ユニットを運転させてください。

- 冷房運転のときは、いちばん設定温度の低い温度に、暖房運転のときは、いちばん高い温度に合わせてください。(室内温度によっては、冷房・暖房どちらか一方しか運転できないことがあります。)
- 停止後すぐに運転しても約3分間(冷房・暖房)運転しません。
- 試運転のチェックは、1台ずつ運転を行った後、全室同時運転でもチェックしてください。冷房・暖房それぞれ行ってください。
- 冷房運転すると、ガス閉鎖弁などに霜が付着することがありますが、異常ではありません。

②約20分運転後、室内ユニットの吸込温度と吹出温度を測定します。下表の値以上であれば正常です。

	冷房	暖房
吹出と吸込の温度差	約8℃	約20℃

(1室運転時)

③室内ユニットまたは床暖房ユニットに付属の取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認してください。

確認項目 チェック項目欄でチェック(☑)してください。

チェック項目	不良の場合
<input type="checkbox"/> 室内外ユニット、床暖房ユニットはしっかり据え付けられていますか。	落下・振動・騒音
<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない、暖まらない
<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行いましたか。(ガス管、液管、室内側のドレンホース延長部)	水漏れ
<input type="checkbox"/> ドレンの排水は確実ですか。	水漏れ
<input type="checkbox"/> D種設置工事は確実ですか。	漏電時危険
<input type="checkbox"/> 誤配線チェック機能を実施しましたか。	運転不能
<input type="checkbox"/> 電線は仕様どおりですか。	運転不能・焼損
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込、吹出口が障害物でふさがっていませんか。	冷えない、暖まらない
<input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いていますか。	冷えない、暖まらない
<input type="checkbox"/> パワースライド設定は、2室以上されていますか。	パワースライド設定が機能しない
<input type="checkbox"/> 待機電力セーブコネクタは正しく設定されていますか。	運転不能、機能不良

お願い

- 保証書に必要事項を記入し、お客様にお渡しください。
- 室内ユニットまたは床暖房ユニットに付属の取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた(特にエアフィルターの清掃、運転操作のしかたおよび温度調節のしかた)をご指導ください。本システムには、他室運転機能があります。取扱説明書の裏表紙に、据付けた室内ユニットがA～E室のいずれに対応しているか、記載の上、お客様に説明願います。(床暖房には他室機能はありません。)
- エアコンまたは床暖房ユニットを運転しないときでもいくら電力を消費しています。据付け後、お客様がすぐに使用されない場合などはむだな電力消費をさけるためにブレーカーを切ってください。ただし、冬期に凍結のおそれがある場合には、必ず床暖房ユニットの水抜きを行ってください。また、お客様への引き渡し時には給水してください。(指定不凍液を使用の場合は、水抜きを行わないでください。)